



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算補足説明資料

2024年11月12日

SWCC株式会社

1. 2024年度第2四半期決算概要
2. 2024年度通期業績計画
3. 2024年度下期戦略
4. Appendix

1. 2024年度第2四半期決算概要

2024年度 第2四半期決算 概況

経営環境

- 脱炭素社会や半導体・デジタル関連需要に向けた投資拡大。
- 2024年問題を背景とする工事案件の年間平準化の動き。
- 自動車関連市場においては、一部自動車メーカーの生産・出荷停止、中国での販売不振。
- 電線業界においては、電線全体の需要は微減。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同期より上昇。

売上高

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、2Q実績は前年同期比増収。
【主な事業分野別状況】
エネルギー・インフラ・・・建設関連向けおよび電力インフラ向けは**需要好調**。
自動車・・・・・・・・・・xEV向け高機能製品の**需要は調整局面**。
通信ケーブル・・・・・・・・建設関連向けおよび車載向け**需要は堅調に推移**。

営業利益

建設関連ならびに電力インフラ向け市場好調により、期初想定を大きく上回り進捗。
前年同期比増益。これを受けて、通期計画を上方修正。

2024年度 第2四半期連結業績 P/L

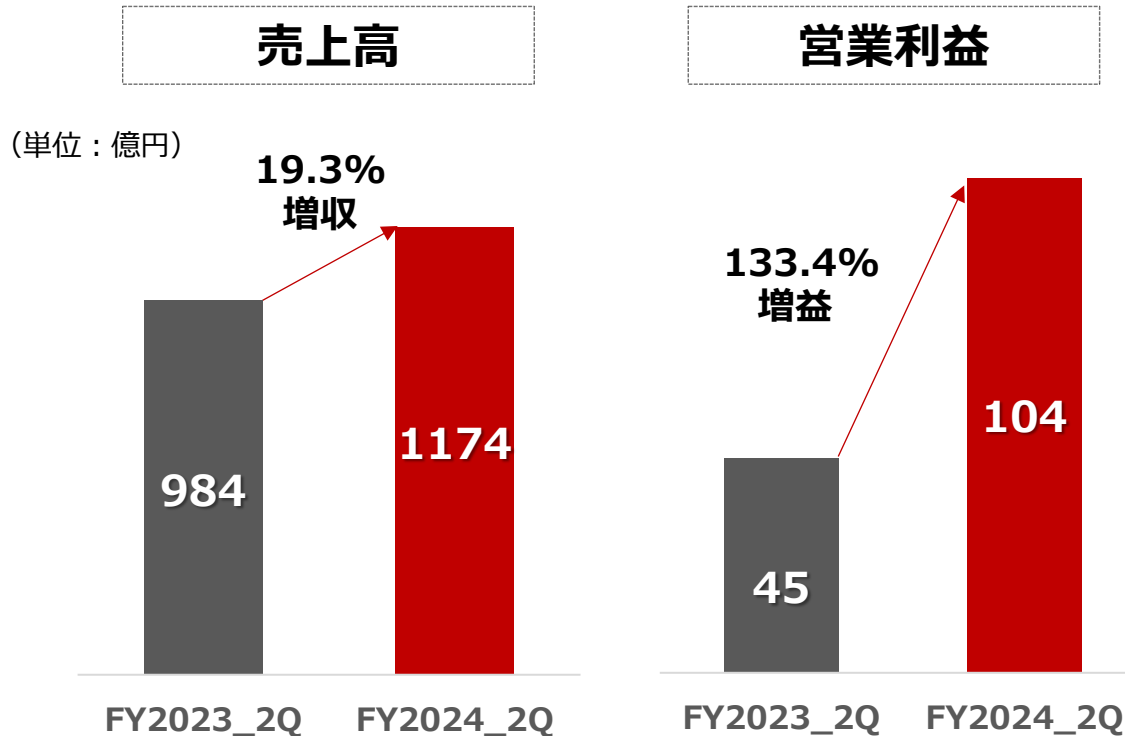
エネルギー・インフラ事業の業績が期初想定を大きく上回り推移し、今後も好調を維持すると見込む。
持分法による投資損失を計上するも、成長牽引事業好調により、**当期業績予想については下記のとおり売上高・利益ともに上方修正。**

(単位：億円)	2023年度 2Q実績	2024年度 2Q実績 (前年同期比%)	2024年度 通期計画 (修正前)	進捗率 %	2024年度 通期計画 (修正後)
売上高	984	1,174 (19.3%)	2,250	52.2%	2,340
営業利益	45	104 (133.4%)	135	77.2%	205 <small>過去最高益を予定</small>
営業利益率 %	4.5%	8.9% (-)	6.0%	—	8.8%
経常利益	45	71 (58.7%)	130	54.6%	170 <small>過去最高益を予定</small>
親会社株主に 帰属する 中間純利益	33	36 (8.8%)	90	39.8%	100 <small>過去最高益を予定</small>

2024年度 第2四半期決算のポイント

2Q前年同期比

期初想定を上回るエネルギー・インフラ事業の業績好調により**大幅に営業利益が増加**。



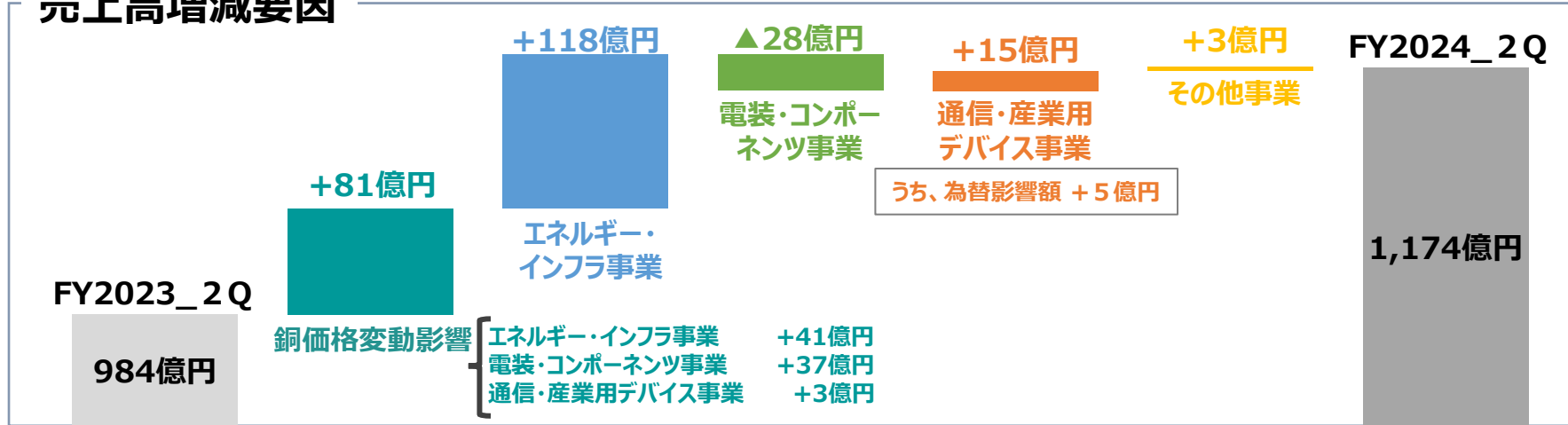
2Q進捗率

業績好調により通期計画を上方修正。
売上高・利益ともに例年より高い進捗。

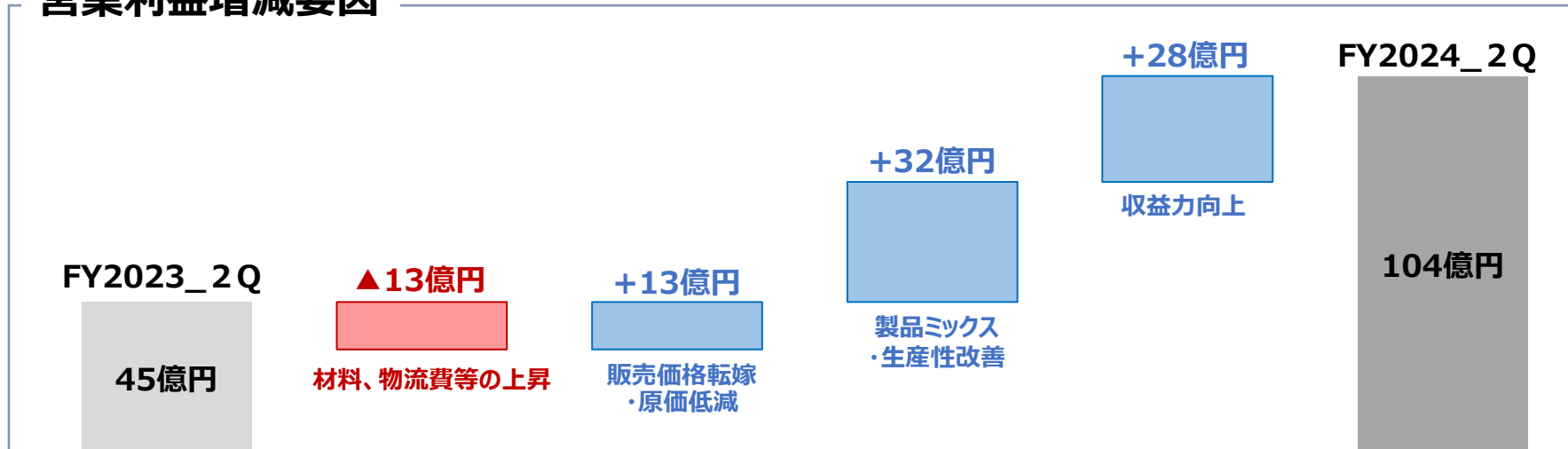
(単位：億円)	修正後 通期計画	FY19-23 平均進捗率	2Q進捗率
売上高	<u>2,340</u>	47.5%	50.2%
営業利益	<u>205</u> 過去最高益を予定	41.5%	50.8%

2024年度 第2四半期 増減要因 (前年同期比)

売上高増減要因



営業利益増減要因



【増減要因】

1. 売上高
期初想定の国内建設関連向け需要反動減もなく、成長牽引事業好調により、**前年同期比増収。**

2. 営業利益
原材料価格、物流費の上昇については、販売価格転嫁と原価低減でカバー。各種収益改善施策の実行と、好調な電力インフラ向け需要増により**前年同期比大幅増益。**

【今後の取り組み】

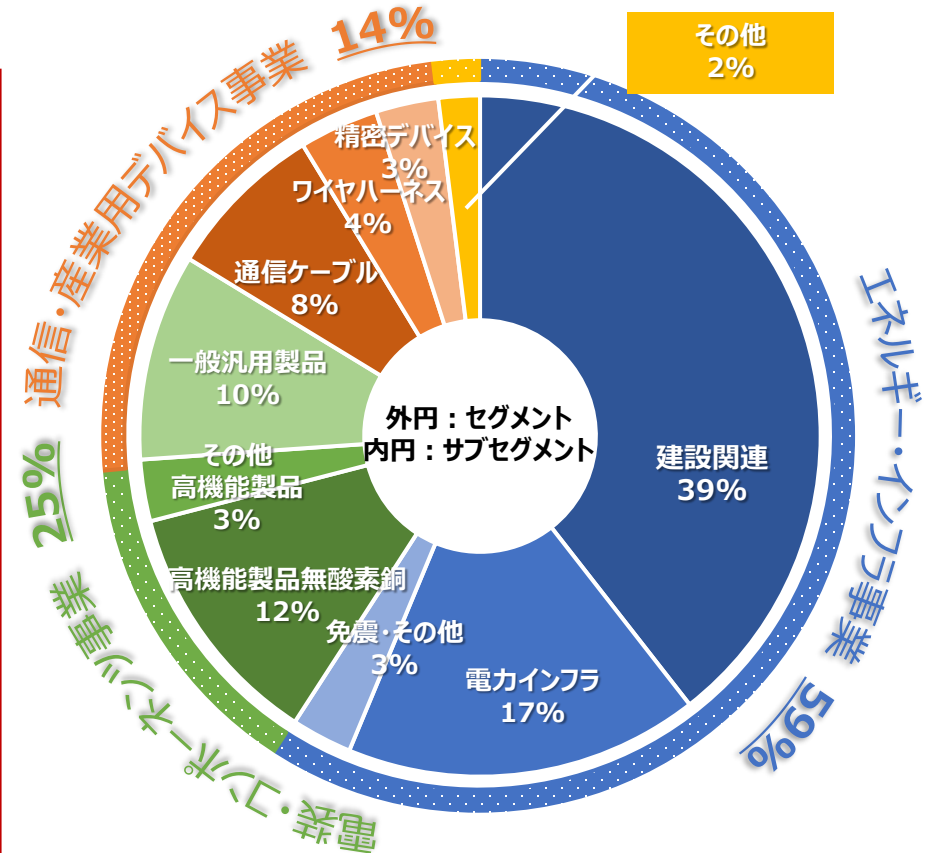
下期以降の出荷に備えて適正な在庫を確保。

2024年度 第2四半期 セグメント業績

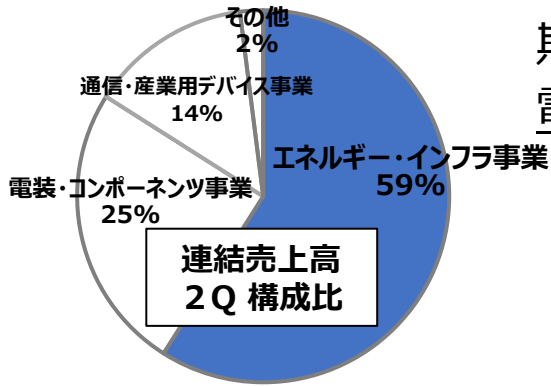
1Q時点、特需（一過性）と見ていた電力インフラ事業の好調ぶりが持続的と判断。
エネルギー・インフラ事業の利益率を前年同期比2倍に押し上げる結果に。
 xEV向け需要、家電向けワイヤハーネス需要は低迷も、通信ケーブル需要堅調により、
通信・産業用デバイス事業の利益率も大幅に改善。

	2023年度2Q 実績		2024年度2Q 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
【好調】 エネルギー・インフラ事業	536	33 (6.1%)	694	86 (12.4%)
【前年並】 電装・コンポーネンツ事業	278	9 (3.1%)	288	10 (3.4%)
【堅調】 通信・産業用デバイス事業	150	7 (4.6%)	168	13 (7.7%)
● その他	20	△4	23	△5
合計	984	45 (4.5%)	1,174	104 (8.9%)

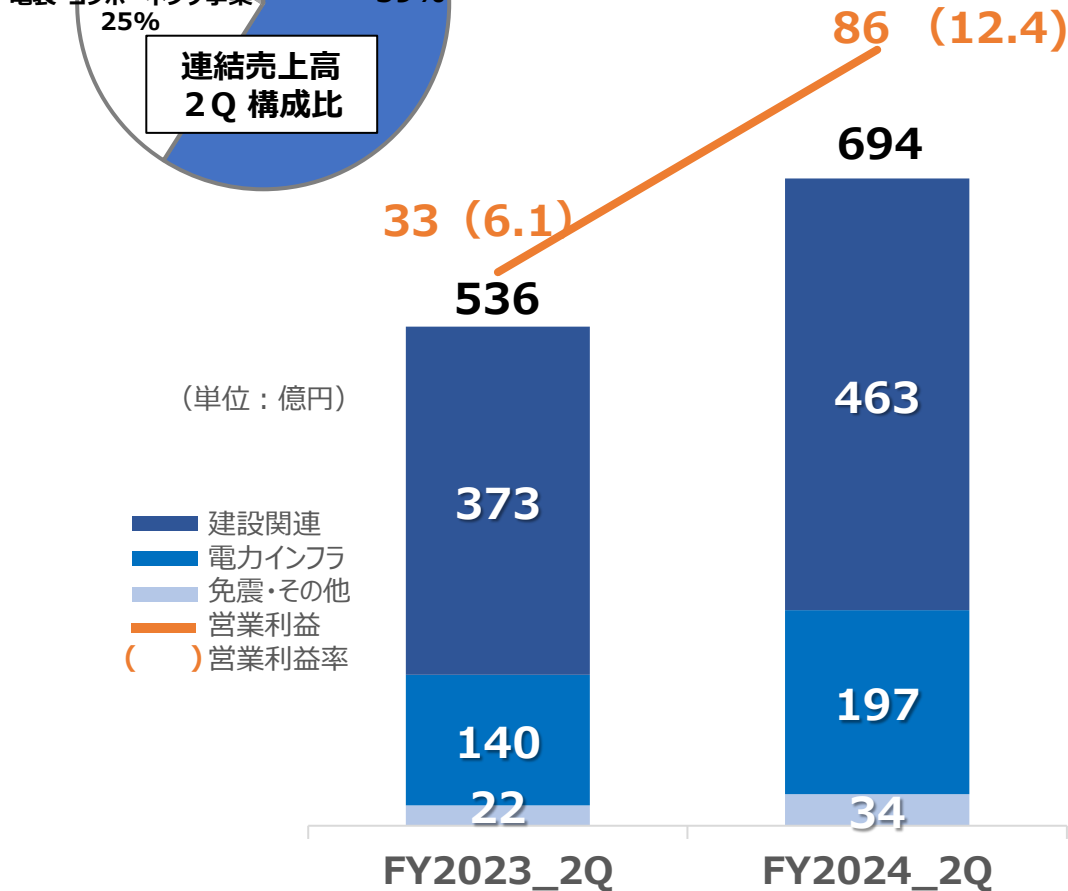
2024年度2Q実績
セグメント売上高比率



2024年度 第2四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業



期初想定した前年度の電線需給逼迫からの反動減はなく、各種収益改善施策の実行と、好調な電力インフラ向け需要を受けて、**前年同期比増収（29.6%増）・大幅な増益（162.0%増）**。



2Q業績（好調）の要因

“好調”

建設

- ・原材料の価格高騰等を織り込んだ販売価格見直し
- ・DX推進や各種生産性向上による収益改善

“好調”

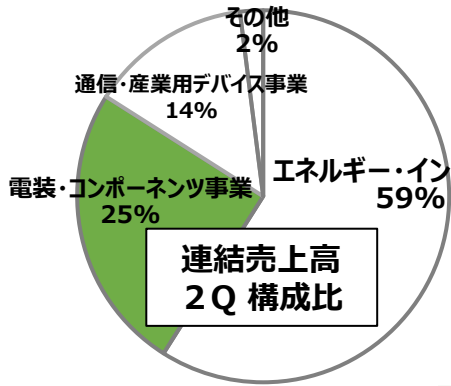
電力

- ・電力会社のレベニューキャップ対応案件の増加
 - ・人手不足を背景とする工事平準化に伴う収益改善
 - ・製品優位性など付加価値を活かした価格改善効果
 - ・旺盛な市況による売上拡大
- ↳ 増産投資をするも損益分岐点比率は減少

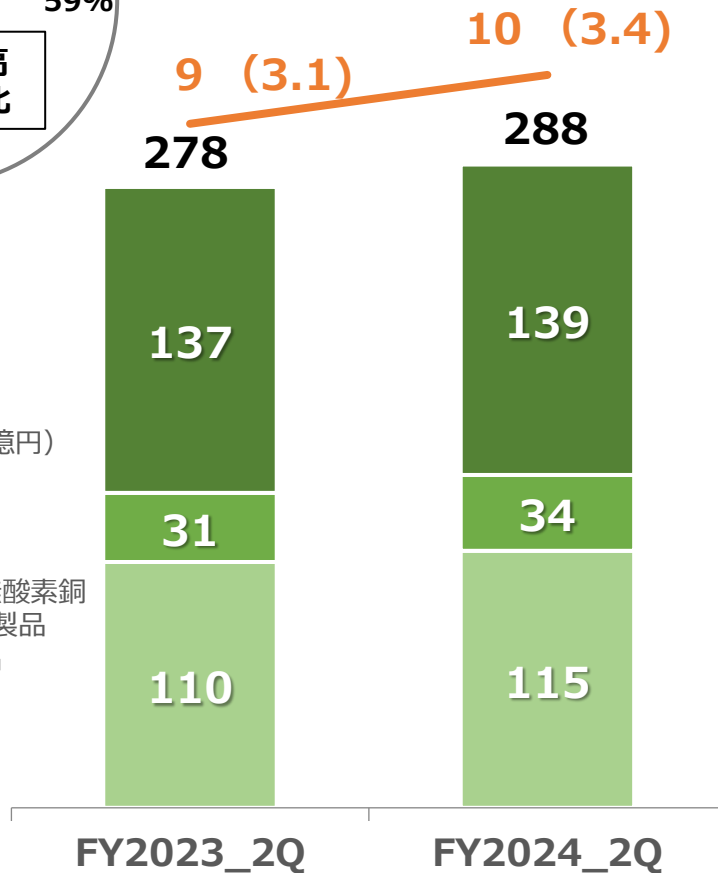
今後の戦略

旺盛な電力インフラ需要を取り込むべく、施工人員、製造、保守含め、中計人員計画より更に増員を予定

2024年度 第2四半期 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業



xEV向けは、一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受けるも、重電向け一般汎用巻線が堅調に推移し、**前年同期比増収（3.5%増）・増益（11.5%増）**。



2Q業績（前年並）の要因

- MiDIP®
- 平角巻線
- ヒータ線

- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止による調整局面
- 欧州ハイブリッド向けは順調も、調整局面
- 一部国内自動車メーカーの生産・出荷停止と中国での販売不振の影響を受ける

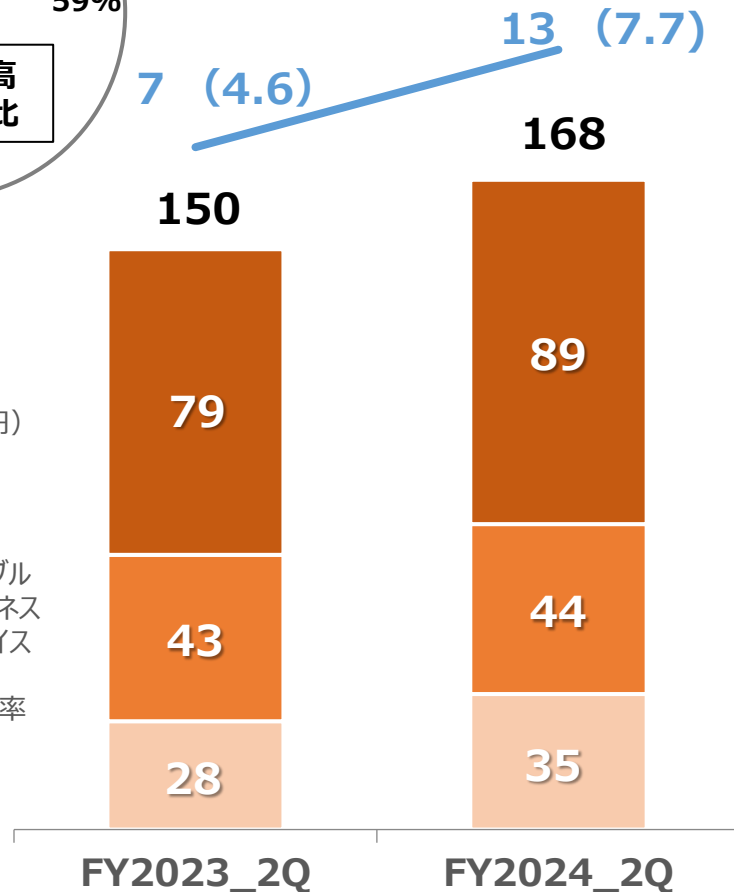
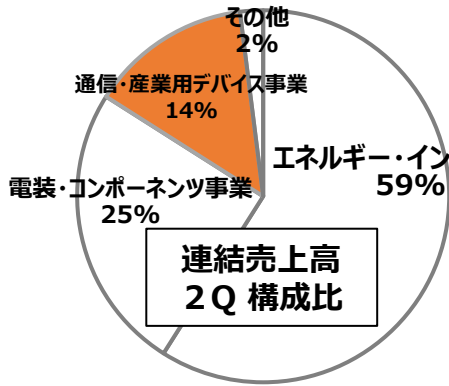
今後の戦略

川下戦略を加速し、高付加価値製品の販売を拡充（バスバー、半導体向け等）

※MiDIP®は左記高機能製品無酸素銅に含まれる戦略製品。また、平角巻線・ヒータ線は、左記その他高機能製品に含まれる戦略製品。

2024年度 第2四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

通信ケーブルは、データセンターを含む建設関連向けと車載向け需要が堅調に推移。ローラも、収益改善の取り組み効果に加え需要改善により、前年同期比増収（12.2%増）・増益（87.7%増）。



2Q業績（堅調）の要因

通信

・データセンター向け堅調。首都圏再開発、大阪万博、再エネ案件も需要継続。好調な市況を背景に主力製品および新製品の売上拡大が寄与

ワイヤハーネス

・日系家電メーカーの国内および中国での販売不振の影響を受ける

ローラ

・昨年からの収益改善の取り組み効果に加え、個人、オフィス、産業向けの需要回復

今後の戦略

FLANTEC®ラインナップ増強による拡販、車載向け高速通信ケーブル、e-Ribbon®の拡販

2024年度 第2四半期 連結業績 B/S (前期末比較)

(単位：億円)	2023年度末	2024年度 2Q	増減
資産合計	1,616	1,662	46
売上債権	515	535	20
棚卸資産	290	317	27
固定資産	672	647	▲24
負債合計	845	859	14
仕入債務	260	264	4
有利子負債	303	361	58
純資産合計	771	803	32
自己資本	759	790	31
自己資本比率(%)	47.0	47.5	0.5
DEレシオ(%)	40	46	6

【棚卸資産】

業績好調な上、銅価格上昇ならびに下期以降の出荷を見越した適正な在庫確保のため増加。

【有利子負債】

業績好調を背景とする運転資金需要による増加。

【自己資本比率】

業績好調により自己資本は積みあがり、前期末対比0.5ポイント増。

【DEレシオ】

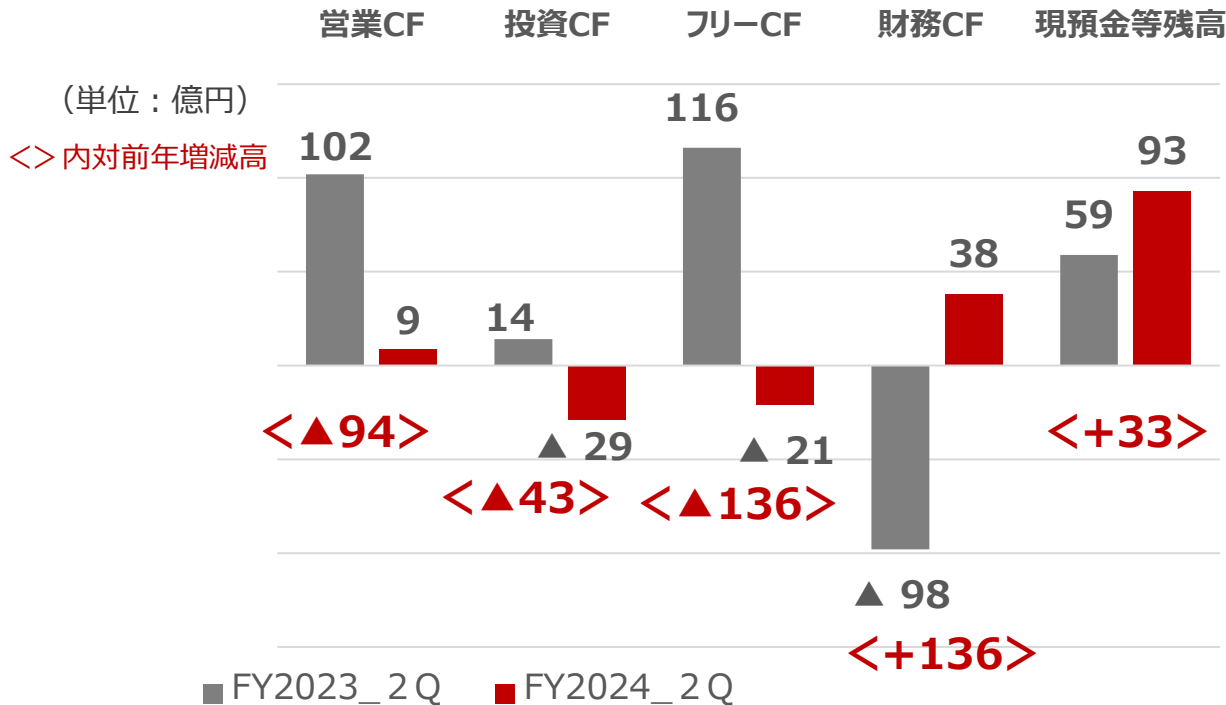
自己資本は積みあがるも、有利子負債も増加したため、前期末対比6ポイント増。

<現状の課題認識と今後の対応策>

CCCの改善など、各種BS改善施策は継続も、原材料価格高騰および下期以降の出荷に備えた適正な在庫確保のため棚卸資産が増加。引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、改善を進める。

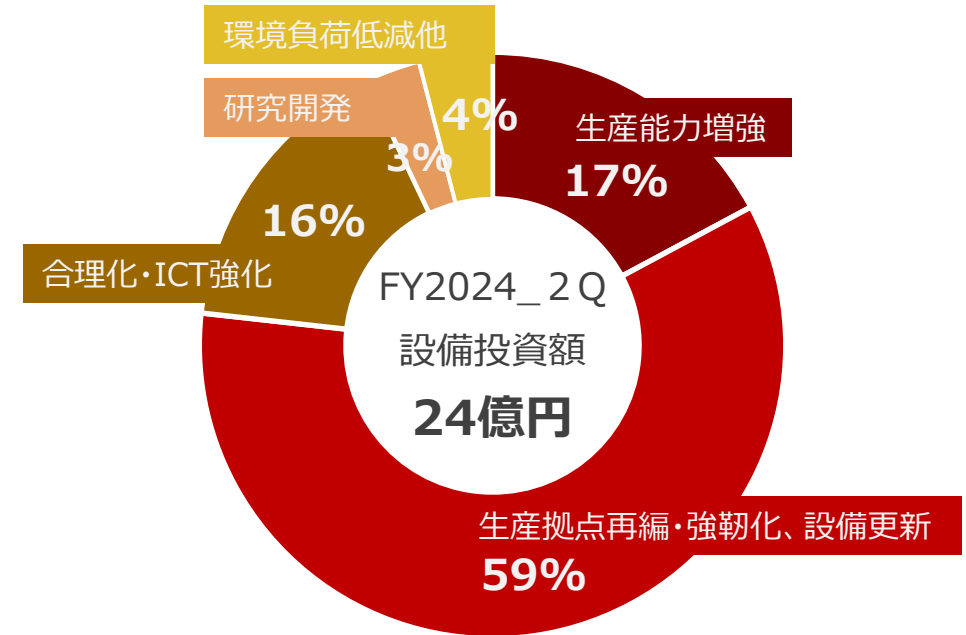
2024年度 第2四半期 連結業績 CFと設備投資額

< 連結キャッシュフロー >



営業CFについては、主に法人税等の支払や売上債権および棚卸資産が増加したことにより減少。投資CFは、有形固定資産の取得により減少。財務CFは、主に業績好調を背景とする運転資金の増加により減少。

< 設備投資額 >



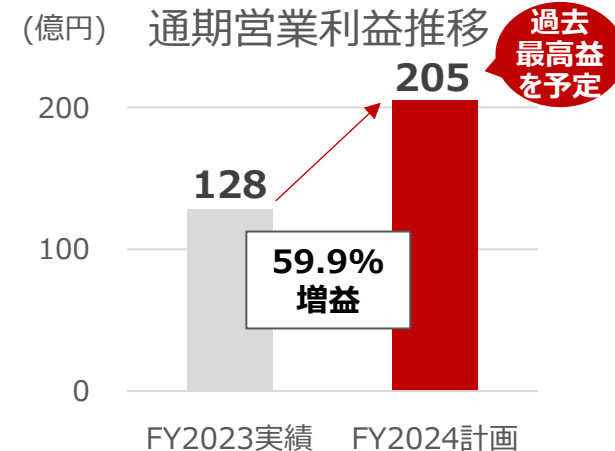
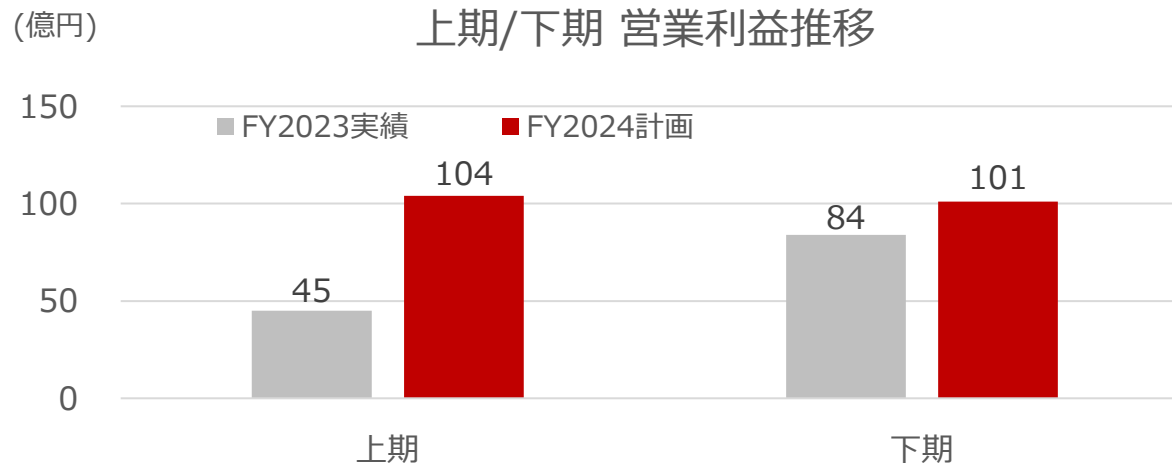
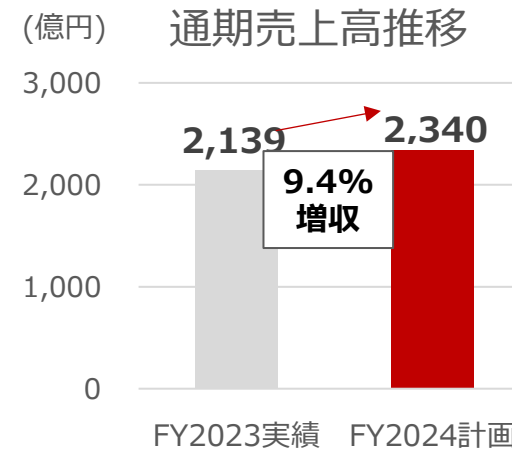
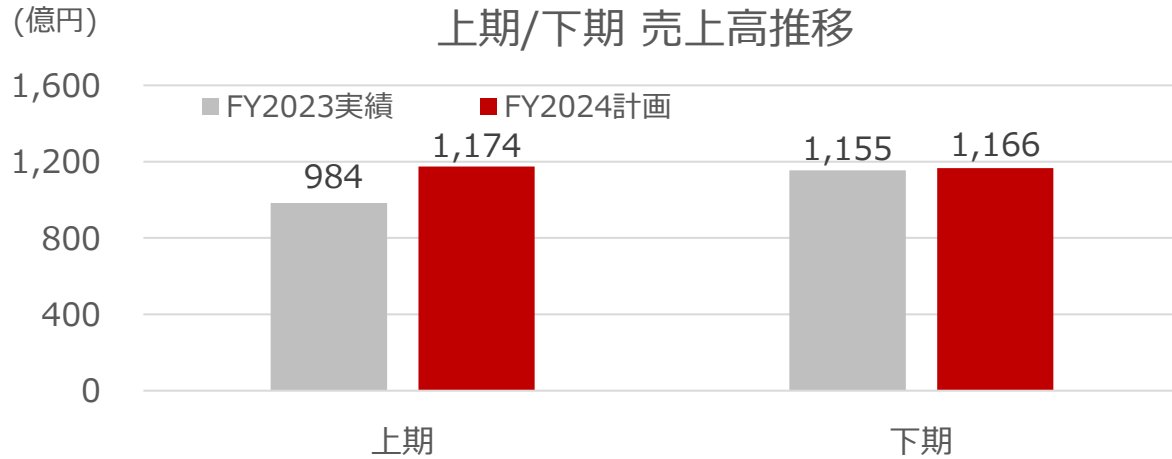
セグメント別内訳

エネルギー・インフラ事業	8億円
電装・コンポーネツ事業	5億円
通信・産業用デバイス事業	3億円
その他	8億円

2. 2024年度通期業績計画

2024年度 通期業績計画（上方修正後）

成長牽引事業好調と各種収益改善施策により**増収・増益を計画**。株主還元は**増配予定**。



経常利益

170億円

(前年度対比39.2%増)

過去
最高益
を予定

親会社株主に帰属する 当期純利益

100億円

(前年度対比13.1%増)

過去
最高益
を予定

配当 配当性向 / DOE

120円

35.6% / 4.5%

(前年度対比30円の増配)

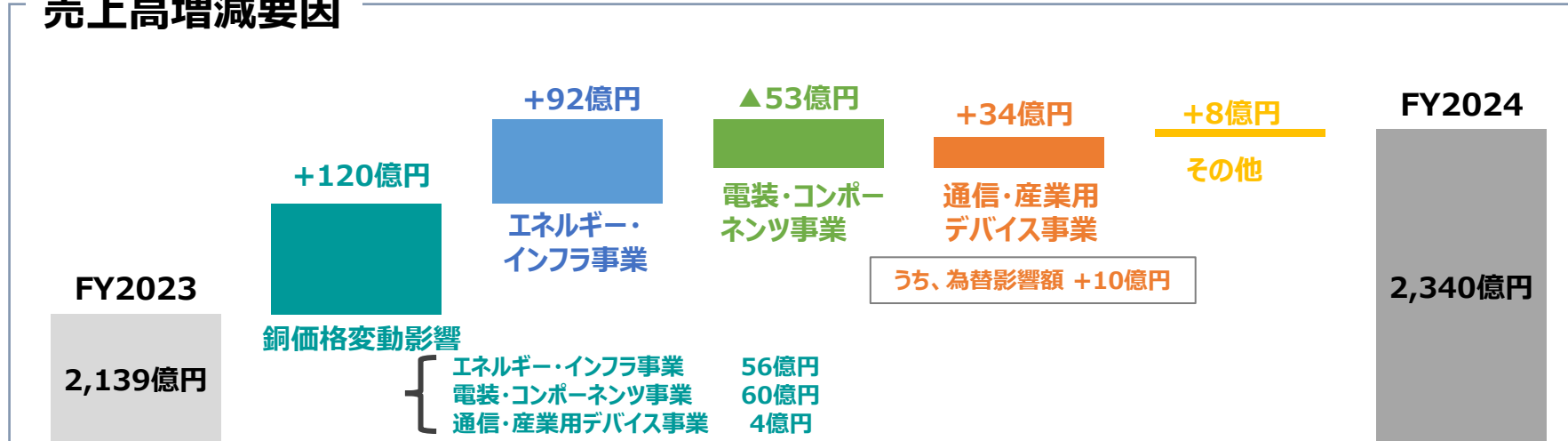
中間:50円

期末:70円 合計 120円

計画比
10円増配

2024年度 通期 増減要因

売上高増減要因



【増減要因】

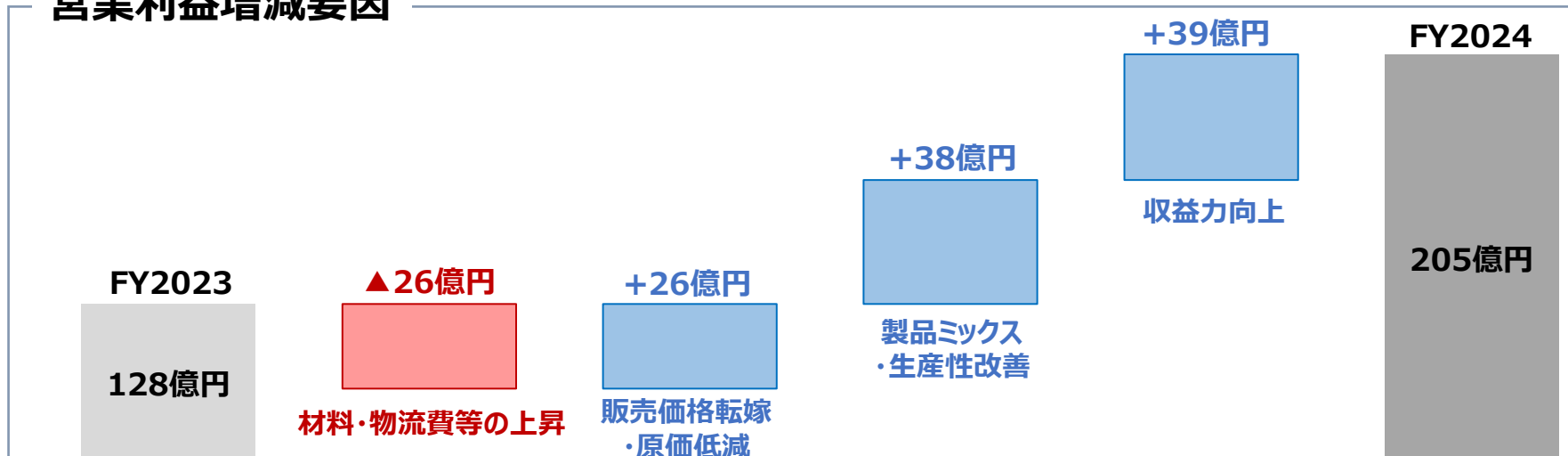
1. 売上高

xEV向けは調整局面により落ち込むも、**建設向けおよび電力インフラ向け**、さらには**通信ケーブル事業好調**により**増収**の見込み。

2. 営業利益

原材料・エネルギーコスト等の上昇に対し販売価格転嫁によりカバー。**成長率引事業の売上拡大**や**収益力改善効果**により**増益**見込み。

営業利益増減要因



セグメント別通期計画の修正

xEV向け需要が調整局面にある電装・コンポーネンツ事業は通期計画を下方修正するも、成長牽引事業が好調なエネルギー・インフラ事業と通信・産業用デバイス事業は売上高・利益ともに通期計画を上方修正。

(単位：億円)		2024年度 上期実績	2024年度 通期計画 (修正前)	2024年度 通期計画 (修正後)	増 減
エネルギー・インフラ事業	売上高	694	1,195	1,380	185
	営業利益	86	102	172	71
	営業利益率(%)	12.4%	8.5%	12.5%	4.0pt
電装・コンポーネンツ事業	売上高	288	670	560	▲110
	営業利益	10	18	16	▲2
	営業利益率(%)	3.4%	2.7%	2.9%	0.2pt
通信・産業用デバイス事業	売上高	168	330	345	15
	営業利益	13	22	28	6
	営業利益率(%)	7.7%	6.7%	8.1%	1.5pt

2024年度 事業環境認識

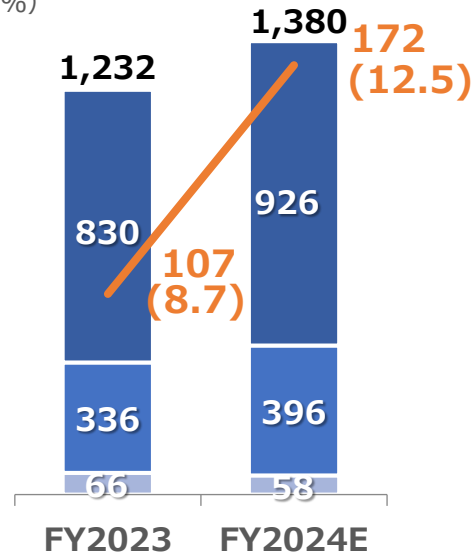
		上期	下期	
計画	営業利益	104億円	101億円	
	配当	50円	70円 (10円増配)	通期120円
事業環境認識	建設	前年度の電線需給逼迫からの反動減なく好調	半導体工場や大型案件などにより需要は前年並みを想定	
	電力	電力会社のレベニューキャップ対応増、工事の平準化	再エネ系統整備等、旺盛な電力インフラ需要 SICONEX®増産およびデファクトスタンダード化による拡販	
	自動車	xEV向け高機能製品は、調整局面	xEV向け高機能製品は調整局面が継続	
	産業用デバイス	ローラは需要回復、ワイヤハーネスは国内外白物家電向け低迷	ローラは堅調、ワイヤハーネスは国内外白物家電向け低迷継続	
	通信	高グレードLANの需要拡大、車載向けFLANTEC®好調 e-Ribbon®北米大手ハイパースケーラー向けに納品開始	高グレードLANの需要拡大、車載向けFLANTEC®好調 e-Ribbon®北米大手ハイパースケーラー向けに拡販	

2024年度 セグメント別業績計画

エネルギー・インフラ事業

■ 建設関連 ■ 電力インフラ
■ 免震・その他 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



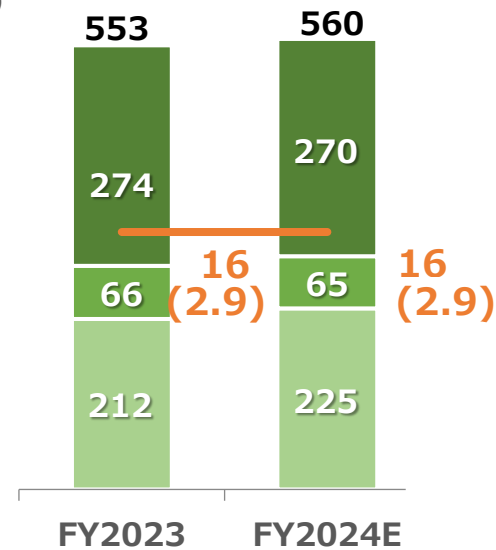
銅価影響：売上高56億円増

- + 要因
- 建設関連の収益改善
 - SICONEX®の増産投資による売上貢献
 - 旺盛な市況に伴う建設・電力の売上拡大

電装・コンポーネンツ事業

■ 高機能製品無酸素銅 ■ その他高機能製品
■ 一般汎用製品 ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)



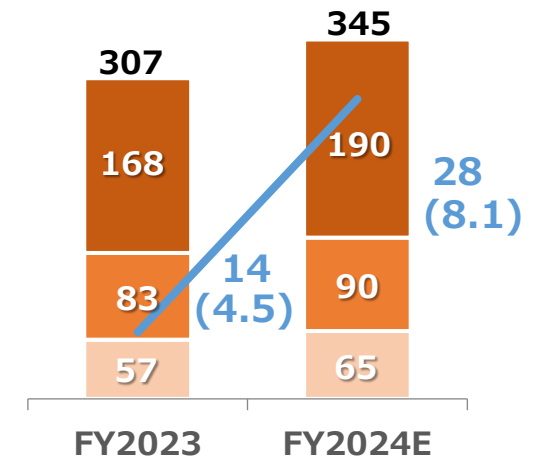
銅価影響：売上高60億円増

- + 要因
- 川下戦略の進展
 - 重電向け需要堅調
- 要因
- xEV向け高機能製品の調整局面

通信・産業用デバイス事業

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス
■ 精密デバイス ■ 営業利益 () 営業利益率

(単位：億円、%)

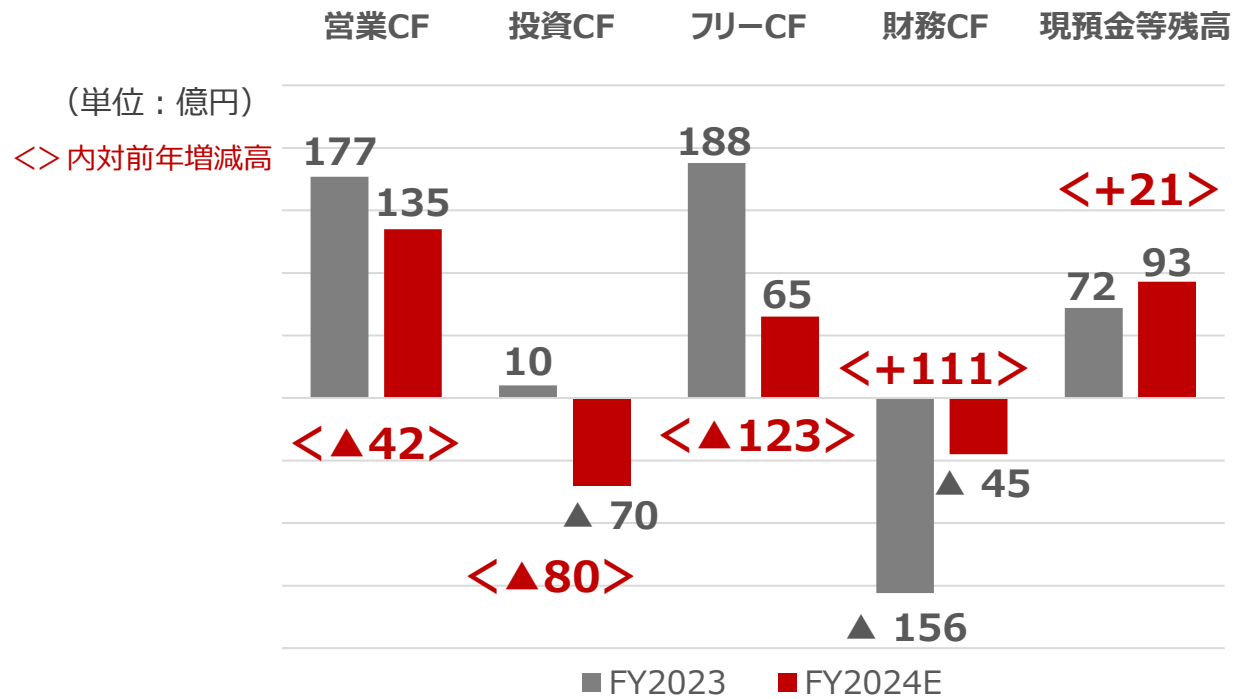


銅価影響：売上高4億円増

- + 要因
- 通信ケーブルの各種戦略製品販売好調
 - ローラの需要回復
- 要因
- 国内外白物家電向け低迷

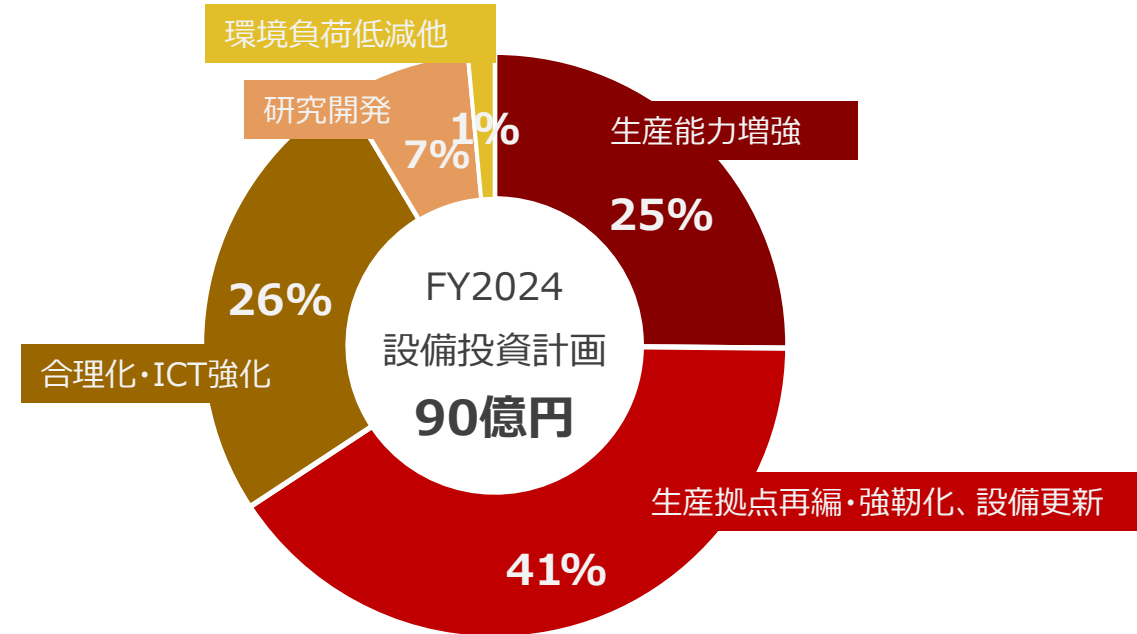
2024年度 連結業績CF予想と設備投資計画

< 連結キャッシュフロー >



2024年度の営業CFは法人税等の支払増加により減少
投資CFは、設備投資の増加により支出増加

< 設備投資計画 >



セグメント別内訳

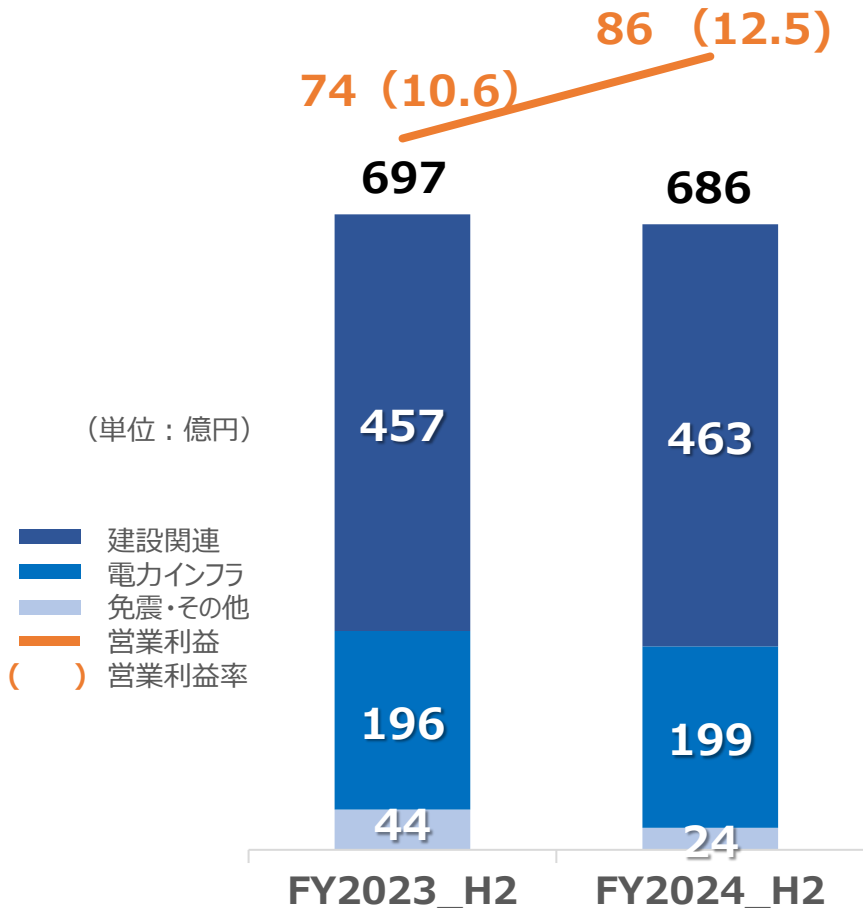
エネルギー・インフラ事業	30億円
電装・コンポーネツ事業	21億円
通信・産業用デバイス事業	12億円
その他	27億円

3. 2024年度下期戦略

2024年度 エネルギー・インフラ事業の下期戦略

今後の戦略

- ・建設関連はキャッシュカウ事業として各種収益改善施策を実行
- ・旺盛な電力インフラ需要を取り込むべく、更なる増産投資に向けた準備、中計人員計画より更に増員を予定



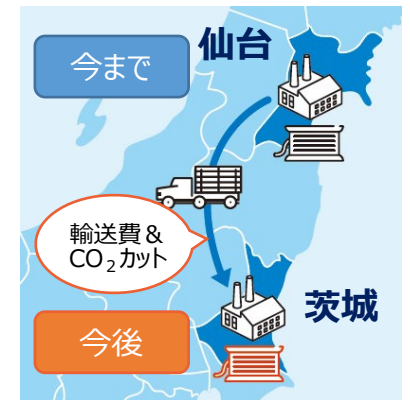
建設

電力

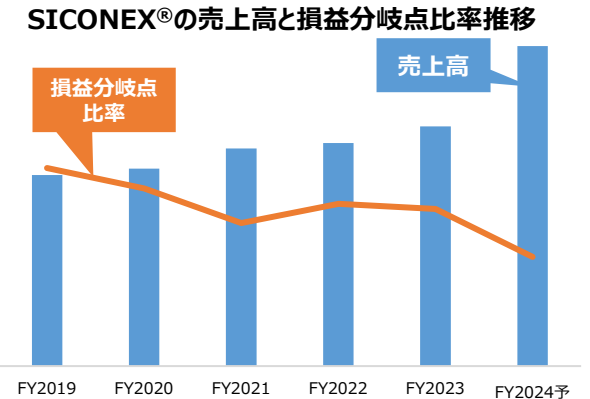
茨城工場【投資効果10月より】
伸線加工・ケーブル一貫生産体制構築
輸送費の削減、製造LT短縮、CO₂低減

DX導入によるCCC改善
受注～出荷までの意思決定スピード最速化
在庫適正管理、各種データ集計時間の削減

価格改善および高付加価値製品の拡販
建設用電線価格改善、ハイエンド消防用耐火ケーブル拡販



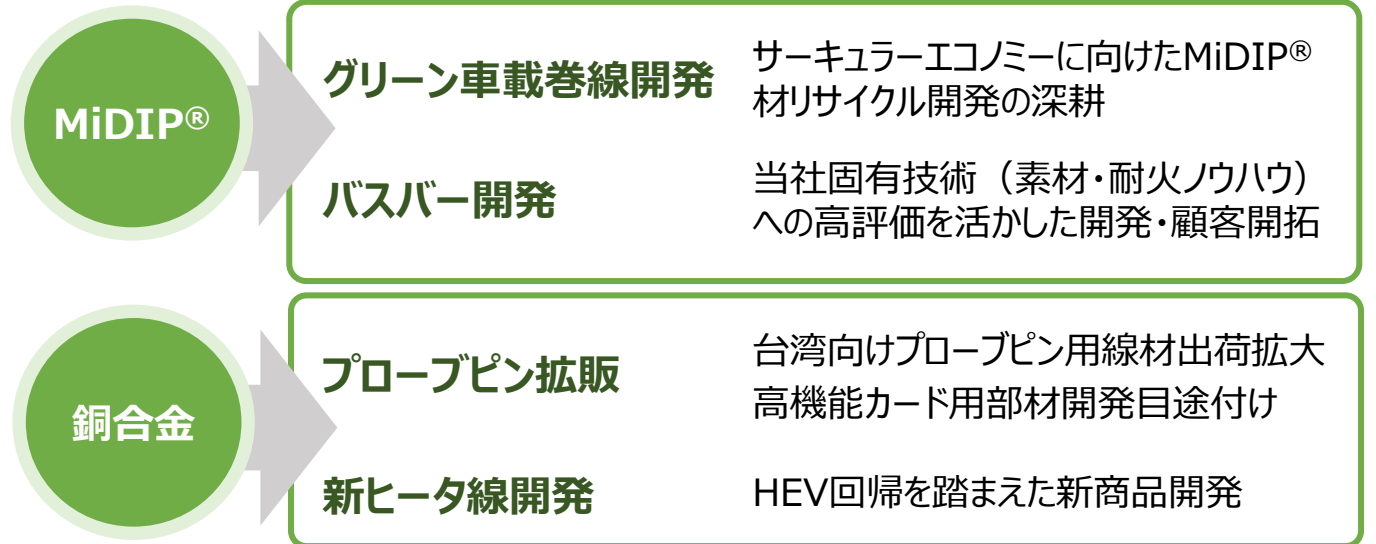
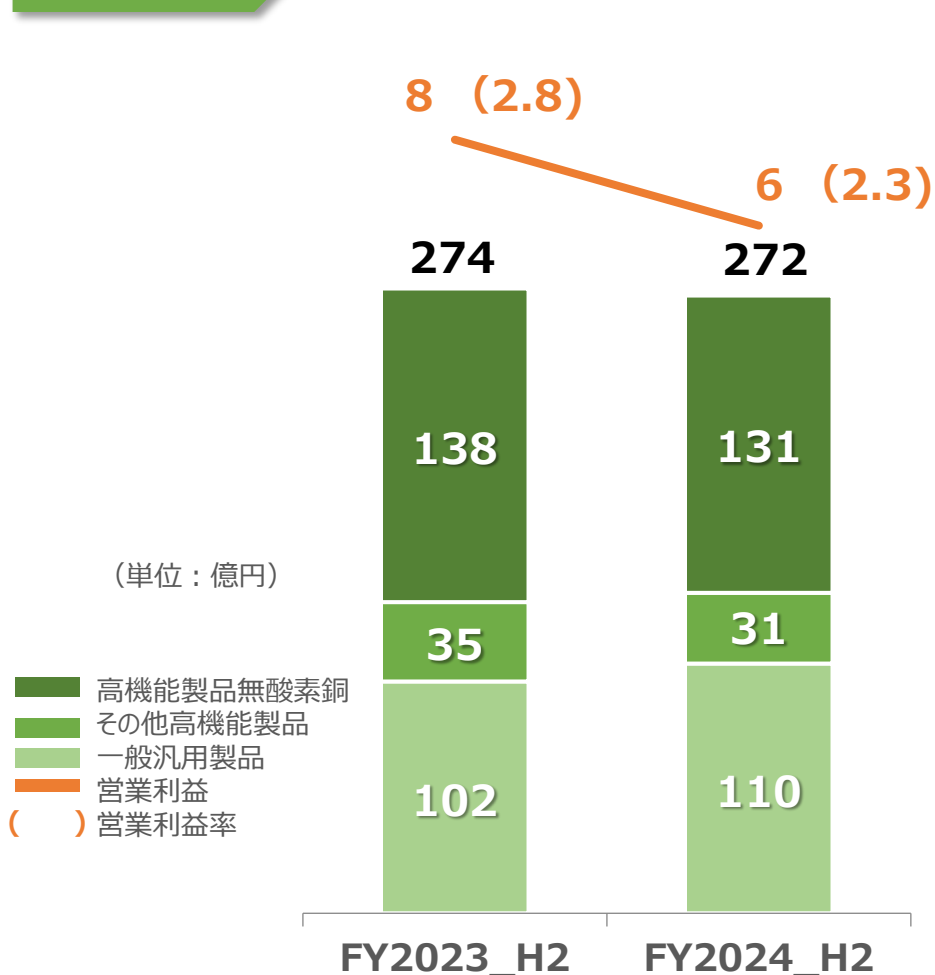
更なる増産投資計画と人員確保
前期完工の増産投資により減価償却費は増えるもそれを上回る売上拡大
競合撤退やレベニューキャップ対応など活況な市況による需要捕捉に向けた更なる増産投資と人員確保計画を加速



2024年度 電装・コンポーネンツ事業の下期戦略

今後の戦略

川下戦略を加速し、高付加価値製品の販売を拡充



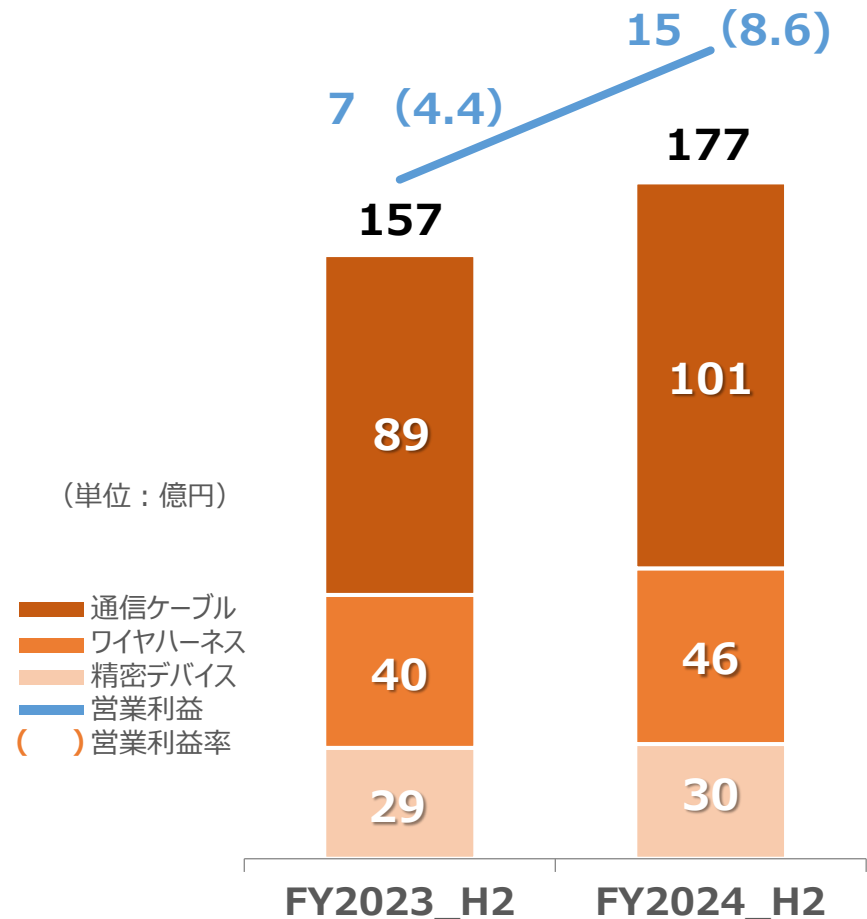
高機能製品出荷量イメージ（前期を100として試算）

	2Q前期比（実績）	3Q前期比（予測）	4Q前期比（予測）
MiDIP®	84%	81%	103%
ヒータ線	96%	73%	79%
高機能巻線	92%	89%	129%

2024年度 通信・産業用デバイス事業の下期戦略

今後の戦略

FLANTEC®ラインナップ増強による拡販、車載向け高速通信ケーブル、e-Ribbon®の拡販



FLANTEC®ラインナップ増強

大容量ネットワーク構築需要を背景とする顧客ニーズに対応し、好調なCat.6Aシリーズを9月にラインナップ増強。下期以降拡販。

- ・超細径導体を採用した超細径仕様の「slim-patch®6A」
- ・超細径産業用LANケーブル「HFS-TPCC® 6A(S) PATCH-FA」

車載高速通信ケーブル（前期新規参入）の拡販

好調なADAS向けの需要を背景に、下期更なる売上拡大を図る（今期売上は、前年対比約3倍を見込む）

e-Ribbon®

北米の大手ハイパースケーラー向けに拡販

（下期は、上期対比約5倍の売上拡大を見込む）

e-Ribbon®の売上拡大イメージ



4 . Appendix

SWCCグループレポート 統合報告書2024 発刊

本報告書では、中期経営計画「Change & Growth SWCC 2026」の計画前半における成果と、計画後半に向けたローリング内容について詳しくご紹介しております。

また、SWCCグループをより深くご理解いただけるよう、各種施策について、担当役員や社員の顔が見えるメッセージ形式でご紹介しています。

新たな価値の創造、持続的な成長に向けたSWCCグループの取り組みを是非ご覧ください。



アンケート回答はこちら▶



■ SWCC 統合報告書

<https://www.swcc.co.jp/jpn/ir/library/download/index.html>

SmartStream事業の新展開① 7/17 ニュースリリース

国立大学法人和歌山大学が保有するポリュメトリック技術とSWCCが保有するAVR[®]技術の連携により点検者を現場に直接転送する新たなAVR[®]システム：ADTPS[™](Advanced Digital Transporter System)を開発

ADTPSのイメージ

AVR[®]空間にポリュメトリック技術によるホログラムを組み込むことにより、まるで「どこでもいけるドア」のごとく、リアルタイムに離れた空間、あるいは過去の空間に点検者を転送



<インフラ業界の現場に展開>

- 会議室から、狭小マンホール内や鉄塔上などの制限のあるインフラ現場へ点検者を転送
- 人手不足、安全性の向上などの社会的課題を解決

サービス化・販売（2025年度目標）

◆ 7/17 ニュースリリース

https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2024/news_6539.html

SmartStream事業の新展開② 8/8 ニュースリリース

SWCC 労働災害予測AI技術

Step1

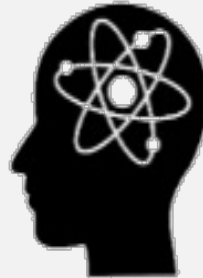
AI解析に向け
過去の災害記録を整理



Step2

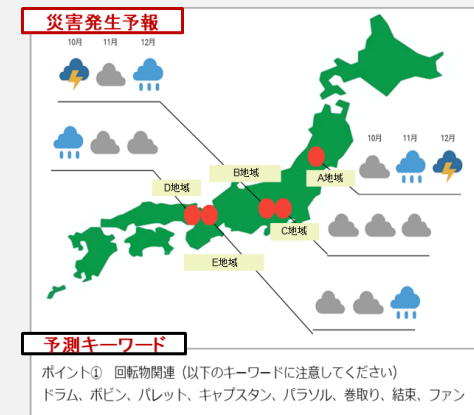
災害予測モデルで将来を予測
・労働災害の発生件数
・発生する災害の内容

災害予想AIモデル



Step3

予測結果を社内HP等に掲示することで
災害への注意喚起を実施



SWCCが保有する労働災害予測AI技術を用いて、東北電力ネットワーク株式会社と北陸電力送配電株式会社と電力業界での労働災害防止に向けた3社共同検証を開始

◆8/8 ニュースリリース

https://www.swcc.co.jp/jpn/news/images/240808AA_PRESS_RELEASE.pdf

10Gbps伝送に対応したCat.6A対応LANケーブルの需要増に伴い、当社への引き合いも堅調に推移しております。そのような中、ケーブルを細径化することでシステムラック等への配線をさらに容易にしたいとの多数の要望を受け、超細径導体を採用した超細径仕様の「slim-patch®6A」を開発しました。

■ 新仕様の特長

① 外径&曲げ半径を33%以上小径化

配線時の作業効率向上

② 製品重量を約53%軽量化

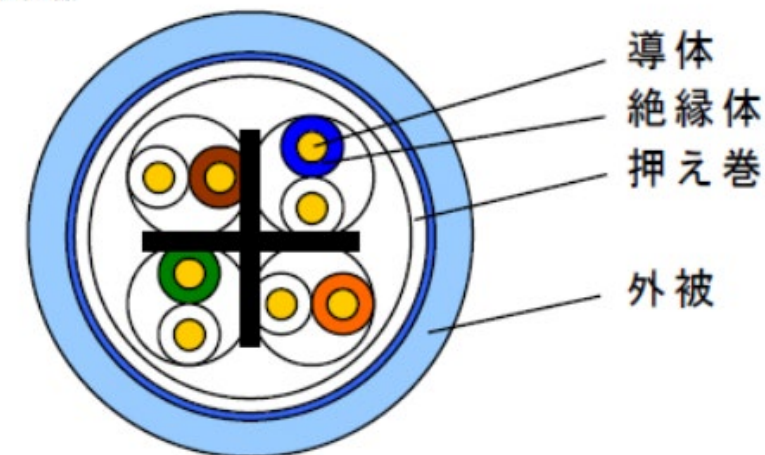
輸送コストの低減および輸送に伴うCO₂排出量削減

③ Cat.6Aチャネル特性を十分満足したRJ-45プラグ両端加工品にて販売

当社工場加工・品質評価したものを出荷するため、品質への信頼性が高く、配線時の機器等への接続が容易

■ 9/18 ニュースリリース

https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2024/news_6589.html



ローカルエリアネットワーク（LAN）は通信トラフィックの増大により、ますます大容量のネットワーク構築が求められており、Cat.6A規格に対応したケーブルの需要も一層拡大する見込みです。特にFA分野においては、高速伝送に対応したイーサネット化への需要が増加する中、超細径産業用LANケーブル「HFS-TPCC® 6A(S) PATCH-FA」を開発しました。

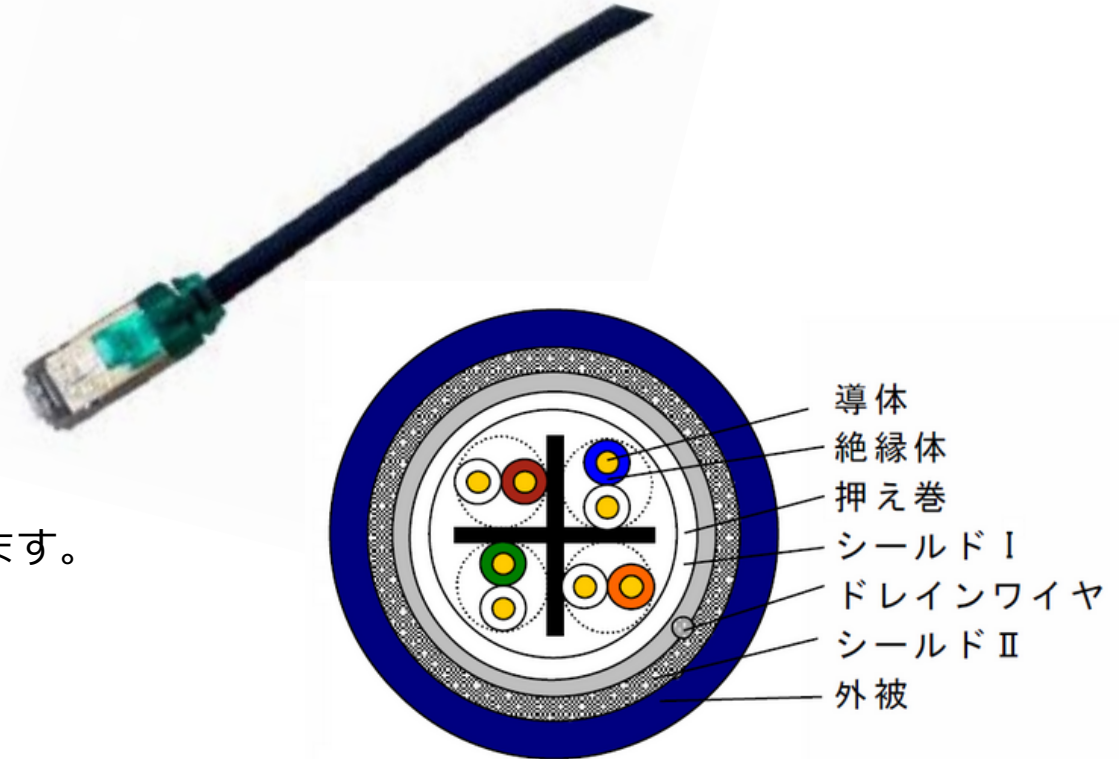
■新仕様の特長（標準仕様品比較）

- ①耐屈曲性10倍以上
- ②優れた遮へい効果
- ③約26%細径化&約46%軽量化

これらの特長により、工場内や機械周りなどのノイズが頻発する環境や、可動部分での連続的な屈曲が加わる過酷な条件下でも正常な通信を提供するとともに、さらに、細径化が求められるロボット内や機器内の配線においても、優れた特性を発揮いたします。

■ 9/30 ニュースリリース

https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2024/news_6601.html





SWCC株式会社

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。